

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者がその人らしく安心できる環境作り、地域に開かれたホーム」という理念の基に地域と共に利用者の暮らしを支えていくと言う事を目指している。また、日々理念を念頭におき、介護を行っていく様心掛けている。	毎月の職員会議や毎日行われる朝、夕の申し送り話し合い、具体的なケアで意思統一を図っている。理念にそぐわないような言動などが見られた場合には場所を移し注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新年会等の地域の会合への参加	区費を払い回覧も届き、新年会、地域の清掃にも参加している。敬老会には高校生のハンドベル演奏もあり、地域にもお知らせしている。手品や盆踊りのボランティアの来訪もある。散歩途中で野菜を頂いたり、ホームから手作りおやつを隣近所に差し上げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お楽しみ会等の行事をご近所の方にお知らせし、認知症の方との交流を深めていける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に一度の運営推進会議を開催し、市の担当者や地域の方、利用者のご家族の方に現状の報告をしている。	家族が交代で参加し、区長、民生委員、市担当者も交え、3ヶ月に1回開催している。ホームの活動報告や意見交換が行なわれている。出席者から次回の話し合いのテーマについて提案をいただくこともある。	来年度から2ヶ月に1回運営推進会議を行いたいと伺った。回数を増やすことで更に地域からの理解と協力をいただき、サービス向上に繋げていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では制度的な面での指導等を頂いている。	市担当部署とは介護認定更新の相談や食中毒・インフルエンザ等の各種研修、管理者研修などで連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない事を職全員で認識している。	職員会議で身体拘束について話し合いをしている。玄関には絨毯が敷かれ玄関の外で外履きをはくようになっている。安全上玄関の鍵をかける場合があるが家族には了承をいただいております。入居者が外出したい時は職員同伴でいつでも出られる。外部からの訪問者にはチャイムで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で取り上げ話し合いを行っている。今後も理解を深め職員全員で虐待が起きない、起こさない様細心の注意を払っている。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に活用出来る様職員は理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、ご本人・ご家族に事前に説明し、不安や質問等を受け付け、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者・ご家族の意見が聞ける様意見箱を設置している。個々で管理者がご本人・ご家族と話す場を作り、施設改善の為に意見をきいている。また、施設運営会議では利用者のご家族に交代で主席して頂き、意見交換を行っている。	家族等の訪問は少なくとも月一回はある。来訪時は話しやすい雰囲気づくりに努めている。担当職員からは毎月請求書と共に食事、入浴の様子、生活全般の報告がされ、所長からは通院の請求書、運営状況、諸々の依頼などが書かれたものが家族あてに配布されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回に職員会議を行い、意見を聞く様になっている。入所する利用者を決定する際にも職員の意見を聞き、皆で話し合っている。	職員会議は全員参加で行われ、次月の行事予定や毎月のレクリエーション報告、入居者の近況報告に加え、職員が普段思っていることなどについて気軽に話し合いが行われている。気づいたことがあれば随時、所長との個人面接を行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、常に向上心をもって働ける様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が均等に研修等に参加出来る様にしている。研修に参加した時は職員会議で内容を発表し、研修内容を共有出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みは出来ていない。		

グループホームよっころしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話の出来る方には話しを傾聴する事を、出来ない方にはその人と向き合い、困っている事を把握出来る様に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設内を案内し、ご家族がリラックスした中で話しを聴ける様にしている。その時は聴取にならない様聴く姿勢に注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事や不安な事に対して支援の提案・相談を繰り返して行く中で必要なサービスに繋げる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状態によりサービスを提供する事が大半の中、スタッフ皆で介護する側・される側を作らない様に努めている。利用者との会話より教えられる事や励まされる事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から頂く情報を大切にし、また施設より利用者の状態をお伝えし、一方通行にならない様に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の御希望・御協力にて外泊・外出が可能である。	お盆、お正月の家への外泊、家族との食事や旅行に出かける入居者もいる。昔の職場の人、友人、知人の来訪もある。レクリエーション外出で知っている道をたどったり馴染みの場所に出掛けるとホームに戻り話がふくらみ楽しい会話に繋がることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	8名の利用者同士の関係はそれぞれ利用者同士で築いていくもので職員はそれを把握していく様心掛けている。また、認知症のレベルによりコミュニケーションが困難な場合は孤立しない様に配慮している。		

グループホームよっころしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の悪化等で医療関係に入院され契約終了になった場合には関係性はなくなっている。しかしご家族が相談に来た時はその都度対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握に努めている。言葉や表情から真意を推測しそれとなく確認する様にしている。意思疎通が困難な方はご家族や関係者から情報を得ている。	訪問調査時ホーム前の電柱工事でホーム内が暗くなり、「どーしたんだい、暗くて・・・」と誰に聞かなくても発した言葉が入居者から聞かれた。職員は入居者の仕草や表情から思いや気持ちを把握しようと一生懸命取り組んでいる。言葉での意思表示が難しい方でも「散歩」などに声がけすると頷き自分の気持ちを表わしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査・見学・家族の面会時等関係者よりお話を聞き、情報の把握をして行く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の生活リズムを理解し、本人の全体像を把握する様にしている。出来ない事より出来る事を伸ばして行ける様に全職員で取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の担当者会議でケアの課題を話し合い、より良いケアを提供出来る様努めている。また状態が変化した際にはその都度見直しを行っている。	担当職員が本人や家族の意向を基に計画作成担当者や相談しながら作成している。全職員で振り返り、評価、見直しが行なわれている。本人の状態に変化があれば実情に即した内容にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護・看護記録を作成した全職員が情報を共有すると共に、変化があった場合、随時カンファレンスを開く様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者には看護師を中心となり医療連携体制を整えており、看取りも行っている。また、通院や送迎等必要な支援も行っている。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	3か月に一度、運営推進会議を開催しており、区長・民生委員の方にも入ってもらい協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今までの医療機関への継続の希望がある場合は受診にお連れし、また利用者の健康状態に合わせて総合病院で受診する。(家族の許可を得る。)更に入居時には協力医療機関を必ず説明している。	本人や家族の希望で協力医に変わることが多い。かかりつけ医や専門医の受診については家族の付き添いが基本であるが、家族に代わり職員が付き添っている。往診は2週間に1度協力医が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を1名確保し医療連携体制を整えている。日々の健康管理・服薬管理・医療機関との連絡体制も整えている。また、職員の医療・健康管理・緊急時の判断力の向上に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合には総合病院の病棟看護師と利用者の情報提供及び交換を行っている。また退院後の生活の準備を整え、当施設での生活が継続出来る様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアカンファレンス及び同意書・医師確認書等を記入し、早い段階から家族に説明し、並行して医師からも説明を受ける。また、看取りケアを行う際、意志・契約時延命治療は行わず、看取りを行う説明をする。	早い段階から家族に説明し話し合いが行われるとともに協力医療機関医師と職員である看護師による24時間の相談が可能となっている。今年度の2件の看取りも家族、医師、職員の付き添いで行われた。他の入居者の中にも亡くなつたことを察知し見送りをされた方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の職員応援体制なども整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制については、自治会でお願いしたり、運営推進会議で協力を呼び掛けている。	地域との防災協定が結ばれている。予防面で夜勤者による火元点検等が徹底して行なわれている。火災報知機が最近設置されたことから通報訓練が行われている。スプリンクラーも設置予定である。2～3日の食糧、介護用品の備えもある。	地域の防災訓練への参加や夜間想定で入居者を交えての防災訓練を実施されることを望みます。

グループホームよっころしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり誘導の声掛けをして本人を傷つけてしまわない様に、目立たず、さり気ない言葉掛けや対応に配慮する。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる様な言葉掛けを職員全員でしない様徹底している。	入居者には「さん」付けで呼びかけをしている。昼食時、箸で掴めなかったおかずをこぼしてしまった入居者に「大丈夫ですよ」と他の入居者には聞こえないように素早く処理する職員の姿を見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と過ごす時間を通して利用者に合わせた声掛けをし、利用者の希望・関心・嗜好を見極め、それを基に日常の中で本人が選び易い場面を作る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが時間を区切った過ごし方はしていない。1人1人の体調に配慮しながら、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個性のある支援を行っていきける様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみを整えられる様職員は準備をしたり、不十分な所や乱れをさり気なく直している。本人の好みや意向を大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る様にしている。旬の食材や新鮮な物を採り入れている。	入居者の希望を聞いて献立が決められている。入居者から「この食事は美味しいですよ。食べたい物があると素早く献立に載せてもらえます。だから太ちゃって・・・」と話し、体重を減らすためにとご飯を一口残される光景も見られた。	職員は手助けが必要な入居者の後ろに昼食が終わるまで立って支援されている。テーブルの配置などによっては入居者の横に座っての支援のほうが会話も一段とはずむのではないかと思われる。何らかの工夫を望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事の摂取量の確認と記録、食べ方の変化の記録と情報の共有・食事形態の工夫。毎食時・おやつ時の各自の水分摂取量の確認と記録を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。本人のレベル低下により全介助や半介助を行っている。夕食後には義歯を洗浄剤につけて洗浄している。ご自分で出来る方はご自分でやって頂いている。		

グループホームよっこらしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立されている方は勿論だが、自分ではトイレに行けない方も誘導し、トイレで排泄出来る方には時間を見て誘導している。	布パンツ使用で自立されている方がほぼ半数いる。全介助の方が若干名いるが、排泄チェック表を活かし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた誘導が行なわれている。ポータブルトイレを使用する方は今のところいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認をし、排便の状態に合わせて下剤の服用をしている。食事摂取量と水分摂取量の観察をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿った入浴が出来る様健康状態や事故防止に気を付けながらゆっくり入浴出来る様見守っている。	南側に面した広い浴室の真ん中に湯船が設置されているので職員も介助しやすい。入居者は個々にシャンプー、洗面器を備えている。週2回は必ず入浴しており、入浴剤を使用しいろいろな香りや季節感を楽しんでいる。家族と共に馴染みの温泉に出掛ける入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを作り、1人1人の体調や希望に考慮し、ゆっくり休息が摂れる様にする。また、寝つけない、不安な気持ち等がある時は話をしたり添い寝をしたりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は看護ファイルにまとめてあり、いつでも全職員が確認する事が出来る。常薬や薬の追加等は看護師より振り分けられ、誤薬のない様に与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で1人1人の出来る事を見出し、お願い出来る様な仕事を頼み、感謝の気持ちを伝える様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調によって近所へ散歩に出掛けている。	ホーム周辺の散歩が日課となっており、近隣の人と挨拶を交わしたり、時には野菜などを頂くこともある。行事外出として桜の花見や名所旧跡にも出掛けている。ソフトクリームを食べたり、回転寿司やファミリーレストランで好みの注文をするなど外食の機会も設けられている。	

グループホームよっころしょ！

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金をお預かりし、事業所が管理している。また、お小遣い帳にて収支の管理を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、手紙を書ける方には希望に沿える様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所とホールがカウンターのみで仕切られているので調理している姿が見えたり、匂いを感じる事が出来る。	立派な大黒柱のある食堂兼居間を中心に各居室が周りがあるので日中をこの場所で過ごす入居者も多く、居心地の良い空間となっている。アロマセラピーを取り入れ、自然の香りにより心身をリラックスさせている。ホームで飼われている犬が大病を患い、入居者も「ノンちゃん」と声をかけたり頭を撫でるなど、ホーム一丸となって愛犬の病気快復を願っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーがあり冬場は炬燵を置き、利用者さんがいつでも利用出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に利用者の使い慣れた馴染みのある物を持って来て貰う様お話している。布団もご本人が今まで使用していた物を持ち込んで頂いている。	床暖房の居室に初冬の暖かな光が射し込んでいた。自宅で使用していた布団を持ち込んだり、馴染みの人形を飾った居室も見られた。本人・子・孫・ひ孫と四代が映る家族写真には入居者にどことなく似たところがある顔立ちが並び微笑ましさを感じた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでホール内、トイレには手すりがあり安全な環境の中で「出来る事」をやっている。		